

學理的のものでありまして、其の様子が大に日本の女子の雜誌とは變つて居ります、之は御希望の方がありますれば置いて参りますから、ゆる／＼御覽を願ひます。

邦畫に及ぼせし洋畫の感化

澤村 專太郎

技藝科會が開かれるから何か話せとの事でありましたか、然し格別面白い話がありませんねから洋畫が日本に入つて來てそれと同時に日本畫が如何なる影響を受けたかについてお話ししてみませう皆様は西洋畫の輸入と云へば直ぐに日本と西洋との交通をお思ひになるでせう。即ち十五世紀から凡三百年位の間に西歐諸國は續々日本に來ましたが、その中の宣教師が耶蘇教をひろめる傍ら繪畫を教へました。けれども其等の宣教師の中には國家に對して面白からぬ考を持つ者などがあつた爲に、時の政治家は之等に向つて壓迫を加へました。それで其反動として起つたのが彼の有名な島原の亂であります。即ち一千六百三十七年から八年にかけて戰つたのですが、彼我交通の斷絶は之れに依て一層嚴重になつたのであります。其後は只和蘭と清との二國の外交通しませんでした。外來の洋畫については此處を分岐點として時期が作られます。即ち十五世紀の半ばから二百年の間は洋畫が我國に傳はつた第一期であります。十八世紀の半に至り日本人が他學の進歩

につれて大なる不便を感じ、西洋の文物知識を吸収せんとする熱望の爲に、精神的に學問を研究し、之と同時に又再び西洋畫が入つて來ました。即ち十七世紀中頃以後明治の初年までが第二期で即ち島原の亂前後に分つことが出来るのであります。

第一期に於て日本人が如何にして洋畫を學びしかといふに、耶蘇教師の中で繪の達者なものが之を傳へました。而し今日ではあまり其名が聞えて居ません。此時には洋畫を模様即ち美術工藝品として入つて來たが、又同時に宗教畫が入つて來たといふことは見逃すべからざることである。是れは如何にして知るかといふに、今日多少残つてゐる實物によつてのみならず、歴史上に於ても、例へば島原の亂では其最初に於て盛んに宗教畫を焼いたといふことが記されて居る。かくの如くして宗教畫を既に戰國時代以來徳川の始めにかけて、盛んに輸入せられたのであります。然らば如何なる人が此第一期の畫家として知られたかといふに、今日では澤山残らないが有名なものは先づ

山田右衛門作である。右衛門作は島原の亂の時には一方の旗頭となつた人である。然るに徳川方に内應したといふ事で城中にて牢に投せられてゐたが、亂が平ぐや助けられて江戸に來た。當時江戸には放火多く之を止めんとして種々の命令を出したけれども効なく、遂に右衛門作をして洋畫の法にて火附けが嚴刑に處せられて居るところの繪を畫かして、到るところに貼らしめたら

大層効果があらはれたといふ事では有名である。

尙其他に信方といふ人があるが如何なる人なるや不明である。

他の一人は河野七兵衛源盛信である。此人は右衛門作よりは少々後の人であります。

當時の繪としては残つて居るものも居らないものもありますが、第一期の畫として世間にある有名なものは四つあります。

第一は東京博物館にある帝王圖屏風と呼ばれてゐるもので、是は山田右衛門作の繪だと云はれてゐるが實は不明である。

第二は南部家に残つて居る屏風一雙で、これを蒲生氏郷の妹が南部家へ嫁入る時持つて來たものである。

第三は西洋婦人が犬を抱ける繪で、これを南部家の奥女中であつた所の耶蘇信者がもつて居たもので、近頃になつて發見された。此女は後に死刑に處せられたので、その遺品として寺に納められたものが残つてゐたのである。

第四は神田男爵家にあるもので、その描法は南部家の屏風に似て居るのですが二枚あります。落款が信方と讀まるゝものである。

博物館にあるものは不確實であるが、日本人の作たる事は確かである、初期としてはよい作であ

る。次に南部家のものには當時の日本婦人を畫いた部分があるので、恐らく日本人で狩野殿の繪を學んだ人が、洋畫を研究して畫いたのであろうといふ人もあるけれども不明である。次に神田家にある繪も不明ではあるが、とにかく日本人の作たることは落款に依ても明かである。要するに第一期の作物として有名なものは是等である。此頃は概して手本を見て畫いたものなることは此繪を見ても知ることが出来るのであります。

次に第二期の繪はどうであつたか。之は今申した様に博物學醫學などの研究と共に、洋畫の研究が起つたもので、面白いのは洋畫夫自身を見習つたと云ふよりも、書物の挿繪を研究して綿密に稽はした形跡がある。中にも西洋畫に於ける銅版畫を模寫したものが残つてゐるが、是を見ると線によつて形をつくり上げたものを、眞面目に模寫してゐるなどは餘程異様な感じが致します。

此時期における作家は

平賀源内、司馬江漢、永田善吉等を始めとして、多數に知られてゐます。平賀源内は後大坂の牢に死にましたが、此人は文學上にも關係深く、又博物學の歴史上今日有名な人である。江漢は浮世繪を畫いて、二代目春信といはれた人で、長崎に於て油繪を研究し非常に洋畫を鼓吹しました文才もあつた人である。永田善吉は岩代國須賀川の人で、田善ともいはれ江漢と共に有名な人である。殊に樂翁公に愛せられ後長崎にゆき洋畫を研究した。江漢及田善は洋畫家としてののみなら

られて鹽釜明神に伴はれ、そこで書いた繪卷物は今でも残つて居ります。「浦之餘波」と云ふのがそれですが、其他に「公餘探勝」と云ふのもあります。華山は山水のほか肖像畫の上に受けたので、とにかく新しい一派であります。

次に浮世繪ですが、之は寶暦年間に奥村政信が浮繪をかいた。之は洋畫の遠近法を利用して奥深く見ゆる法であつて、芝居の春景の書き方は之であります。殊に風景室内繪にして之を版畫として賣り廣めました。

風景畫の方で感化をうけたのは、一立齋廣重である。之は確かに從來の日本畫に於て見られぬ畫き方である。此人は幾分所謂空氣を畫きいたそうとしてゐた事が認められます。

之等の三種の畫派を總括して考へて見れば、是等は近世に於ける日本畫派の大部分であつて、洋畫と日本畫との關係は案外親密である事が知れます。次に如何なる西洋畫家若くば畫派が感化を及ぼしたかを考へて見ますに、日本畫に及した感化は特別な西洋の畫家、若くば畫派としての感化があらはれて居ないといふ事は注意すべき事である。是れは兩者の差異が大である爲にデリケートの點まで影響を及し得ないので、根本的の相違のみが影響したのであります。即ちそれは

1 陰影法と

2 遠近法

とでありまして此二つが如何に影響したか、問題となるに過ぎないのであります。

陰影法は日本畫に其後大なる影響を及しませんでした、其一は日本人が之についてあまり興味を持たなかつた事と、二はそれほど實寫的にすることは却つて畫の品位をさげるものと考へた事によります。されど遠近法は大なる影響を及ぼしました。東西兩洋畫の差は大に此點に存するもので之を利用する事は大部分の人が氣がついたらしいのであります。想ふに此二つは洋畫と日本畫とを比較するに最も面白い點であつて、洋畫から日本畫を見て心附くのは陰影のなき事、遠近の不十分な事であります。此二點が洋畫を見る上にも日本畫を考ふる上にも兩者を比較する上にも最も大切な事であると思ひます。

便所に就て

竹の島 茂 郎

文字は其の組み合せ方によつて種々の意味を持つものであるが、便所の便も其の一例であつて、之を殿と組めば畏多い場所となり、之を所と組めば不淨場となるのである。偕も此の穢はしい場所に使の字を付けた理由は何れにあるか、大小便の用を果す所と云ふ意から來たとすれば一應尤であるが、是等の排泄に使の字をなせ用ひたかと云ふて、矢張其の理由は分らぬ。併し字義の研